

施工事例 ≫ 当社の連続発生システム導入レポート

CASE 1 秋田県秋田市 高尾工業株式会社様

大手メーカーの国内最大手・下請工場として経営してきましたが、近年製造工場の海外移転によって、受注の減少が続いていました。そこで余剰人員や遊休地を利用して、菌床椎茸栽培を平成 20 年度の春にSCB型(フィルム張りハウス)100 坪ハウス×2 棟からスタートしました。



初年度は椎茸が大量発生して採集やパック資材が追いつかずロスを出す、などのアクシデントもあって試行錯誤の連続でしたが、1 年後には大体のメドがつき、栽培ペースを確立することができました。

2 年目に販路拡大と生産の安定化を図るために 150 坪の培養室^{*1}と 130 坪発生室の計 2 棟増設しました。



- ①高尾工業株式会社:社屋外観
- ②工藤代表取締役:自ら開発した減圧方式菌床浸水^{*2}装置と
- ③ハウス外観:発生室
- ④ハウス内部:装置を使って浸水作業中

*1 培養室:菌床を熟成させるための施設。

*2 浸水:菌床を水槽に浸し吸水させることによって椎茸の出を良くする。

その後は椎茸の発生量も安定し、品質の向上と、生産コストのスリム化が当面の目標です。

今後の予定として、障がい者雇用型の栽培施設の建設を検討しています。障がい者を主体に雇用し、人件費を抑え、各種助成制度を利用して次回の設備投資に生かす方向で計画中です。

社長自らが開発:浸水装置

浸水は椎茸の出を良くする有効な手段ですが、従来の方法では時間と労力がかかりました。そこで社長自らが減圧方式菌床浸水装置を開発。今まで完全に菌床が吸水するのに 5~17 時間かかるところを 10 分に大幅短縮することに成功しました。



CASE 2 兵庫県秋南あわじ市 第一生コン株式会社様

瀬戸内海で一番大きな島・淡路島で生コンを製造する建設関係のグループ会社を運営しています。近年の建設不況を見据えて数年前から異業種参入を検討、各企業を視察してきました。そんな中、岩手県で椎茸栽培を企業的に経営されている(株)ミナカワを見学した折に「これならいける！」と確信、本格的な事業化を目指し菌床椎茸栽培事業に着手しました。当初から企業的経営規模としては最小規模の発生室 100 坪×3 棟と自社培養棟プランでスタート。遊休施設を改造し、培地の製造からの一貫生産を開始しました。



- ①ハウス外観: 発生室
- ②ハウス内部: 発生室
- ③包装室: ベルトコンベヤで流れ作業
- ④ミキサー: オガ粉等を混ぜる

培地の製造から一貫して行うことでコストダウンが可能です。その他にも、パック詰めでの無駄と間違いを防ぐため自動計量システムを採用しパック当たりの重量を統一するなど、品質を維持・向上させつつコストダウン化を図っています。現在は管理人件費の低減や収量アップのための製造工程の見直しを行っています。更なる合理化を図り、早急に 10 棟規模・3 億円程度まで売り上げを伸ばしたいと計画中です。

CASE 3 岩手県下閉伊郡岩泉町 野館様

岩手県岩泉町で公社社長を退職後、菌床椎茸栽培を始めました。地元でご友人でもある(株)ミナカワから培地(菌床)を購入し栽培、販売も(株)ミナカワを通じて東京方面に出荷しています。



発生室 100 坪でスタートして 1 年、同地区のベテラン椎茸栽培農家さんとはほぼ同じくらいの生産量をあげることができました。来年度はもう 1 棟増設して規模拡大を検討中です。